

平成26年度 学校自己評価システムシート (県立深谷商業高等学校)

目指す学校像	本校の輝かしい歴史と伝統の上に立ち「至誠・士魂商才」の校訓のもと、中学生が「行きたい学校」、企業が生徒を「採用したい学校」、地域が「支えたい学校」、生徒が「明日もまた行きたい学校」、先生方が「働きたい学校」をめざす。
--------	--

重点目標	1 自ら学ぶ姿勢を培いビジネスの実践力を高める学力向上と資格取得に取り組む。 2 マナーと規律を守り思いやりの心を育てる生徒指導に取り組む。 3 生徒の志を高め、一人一人の希望進路を実現させる進路指導に取り組む。 4 地域に開かれた学校づくり、厳しさを増すことが明らかな生徒募集の改善に取り組む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	全商検定3種目以上1級合格者数は3年連続で100名超だが、前年度はやや減少した。資格取得への意欲は高く取組状況も良好だが、自ら学ぶ姿勢や学習習慣が十分でない。授業改善や外部の教育力の活用などで学力向上の取組を学校全体で進める必要がある。	高い資格取得状況の維持、改善	①授業改善と新指導要領による教育課程完成に向けて教科内研修会を行う。 ②外部講師を活用した特別授業を行う。	①教科内研修会が実施され授業改善が進んだか。 ②外部講師の活用がなされ、生徒の興味・関心、理解が進んだか。	①商業科を中心に実施、「指導の工夫改善を行っている」教員が前年度比で増。 ②特別講座での活用、「授業理解できる」前年度比増。	A	①商業科目の7限補習など新しい試みがなされた。深商生に求められる学力を更に向上するための方策を、各教科が連携し学校全体で取り組む体制が必要。
		家庭学習を習慣化させ、学力を向上させる	①普通教科での授業改善、定期考査問題の共通化などを進める。 ②家庭学習を定着させる課題を出題する。	①普通教科で生徒の学力向上が進んだか。 ②生徒アンケートで家庭学習「している」が前年度比で増加したか。	①部分的に考査問題共通化進む。生徒の実態に即した指導の工夫が見られた。 ②2年が現3年より増加も、1年次より下がる。	B	②入学時からの家庭学習習慣の定着は継続課題。商業科目の復習、普通教科の予習をさせる工夫をする。
2	落ち着いたある生徒が多くなり問題行動も少ないが、県内第一の商業高校にふさわしいビジネスマナーの向上、一部常態化する遅刻生徒への対応、自転車のマナーアップと事故防止、いじめを許さず思いやりと豊かな心を育む教育の推進に学校全体である必要がある。	ビジネスマナーを向上させる	①制服指導の共通理解を図り、学校全体が歩調を合わせた取組とする。 ②あいさつ、自転車のマナーアップを推進する。	①制服の正しい着用が前年度より改善したか。 ②あいさつが増え、自転車マナーの苦情や事故が前年度より減ったか。	①1年の生徒、保護者の肯定意見が増加。 ②挨拶は1年でやや改善。スクアーストレイト教育技法を活用した自転車指導等で改善。	A	①街頭指導参加の保護者増員や、学校公開への出席率を高め、教員と保護者が連携した生徒指導体制を整えたい。
		思いやりと豊かな心を育む指導を改善する	①いじめ防止基本方針に基づく防止対策を講じる。 ②あり方生き方教育を工夫する。ボランティア活動を推進する。	①いじめゼロ、いじめを許さない心が育まれたか。 ②思いやりの心や豊かな心の育成がなされたか。	①ネットによる人権侵害で指導事案発生。講話、文書、保護者への協力等、指導強化。 ②被災地ボランティア、小高交流実施。人権教育講演会成功。	B	②いじめ防止の指導を定期的に行う。ロールプレイやグループ討議を取り入れた在り方生き方教育、人権教育を工夫する。
3	事務職希望を中心に依然厳しい就職状況の中、企業見学の方法等の見直しもあり100%の進路決定を達成した。生徒の希望進路の実現率を上げるために、保護者や外部の教育力を生かし、早い段階から進路意識を高める必要がある。進路情報の発信についても工夫する。	早い段階からの進路指導を改善する	①1,2年生の進路ガイダンスを工夫、改善する。 ②外部講師を活用した講演会に保護者も参加してもらう。	①進路への関心がガイダンス前よりも高まったか。 ②講演会に保護者の参加があり関心を高められたか。	①1,2年の積極参加及び進路ノートの活用が改善。 ②「プロフェッショナルに学ぶ」を実施。保護者の期待は大、参加無	A	①企業や大学等との連携を広げた進路指導、模擬面接に保護者の協力を得るなど保護者を巻き込んだ進路指導を進める。
		求人開拓、進路情報提供の工夫を進める	①就職支援アドバイザーも活用しながら求人開拓を積極的に進める。 ②保護者向け進路情報の提供を工夫する。	①企業とのパイプを広げ、求人数が増えたか。 ②保護者アンケートで情報提供を「おこなっている」が前年度比で増加したか。	①アドバイザーを進路相談で活用。進路指導主事の積極的な売り込みで求人数増加。 ②求人情報のホームページでの提供、保護者の肯定感増加。	A	②保護者の進路室や進路相談の積極活用を促す。地域の関係機関との連携を進め進路指導の質を向上する。
4	記念館二層楼の一般開放が始まり、その活用に期待が高まっている。北部地域における厳しい生徒募集の実態を鑑み、生徒募集の抜本的な見直しが必要になっている。また、地域との交流を広げる。	記念館の活用を進める	①生徒には情操教育の場として活用、一般には日曜日に開放。映画等の撮影に提供。	①使用者、見学者に満足してもらえたか。活用が十分なされたか。	①進路ガイダンスや相談、面接指導の場、各種会議で活用。一般開放の来場者多数。	A	①情操教育の場としての活用に工夫が必要。学校開放講座等の会場としての活用を検討したい。
		生徒募集の工夫、改善を行う	①体験入学、学校説明会の内容を工夫する。中学校への積極的な情報提供を進める。	①方策が実施され、27年度志望者が前年度比で増加したか。	①小さな工夫にとどまる。全国的な商業不人気の中、12月希望状況は前年とほぼ同じ。	A	②商業高校の良さ、本校の特色を積極発信。ニーズに応える体験入学の工夫改善。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成27年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が皆、熱心だったのが印象的。 ・授業見学したが、5校時にもかかわらず集中してやっていた。 ・日頃からの先生方の熱心な指導が、生徒を前向きな姿勢にしている。熱心な先生が大勢いる学校はそうない。 ・優れた学習指導を継続してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は概ね落ち着いていて、生徒指導部がよく頑張っている。 ・ボランティア活動等は良い取組なので継承してほしい。 ・情報リテラシーは学校でしっかり指導してくれるとよい。 ・挨拶ができるように、もっと部活動に参加してもらいたい。 ・制服をしっかりと着てもらいたい。高学年が低学年に示せるとよい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス機能が働いており、普段からの学習の成果が出ている。いい状態を維持するのは大変だが、生徒の意見を取り入れながら継続して。 ・高大連携、接続教育に熱心な大学にはどんどん行くべきだ。 ・PTA進路バス見学はよかった。指定校枠が増えるように実績を伸ばしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・建物の価値を学ぶ機会を設けることも大切だ。 ・これからも深商の伝統を守って、頑張してほしい。 	

